

traveler 01

name: 柏木敦子 Atsuko Kashiwagi

書くことはとても大きかった。 ホームページがあったから 旅を続けられた部分もある。



ホームページに切々と心境をつづりつつ、乙女は世界に行く。旅先で入院したことも、強盗に遭って大怪我をしたこともあった。けれど彼女は旅を続けた。ごく普通の女子が、たったひとりで3年半の世界一周を成し遂げた裏にあるものとは？

普通の顔をしてスリリとやってのける

私はいつも、彼女が気になっていた。同じ歳で同業者。私たちより3ヶ月前にたった1人で日本を旅立ち、同じく旅先からホームページを更新し続けていた。初めて会ったのは、アフリカのエチオピアのこと。おかつば頭に華奢な体は、とてもじゃないけどアフリカくんだりまで1人で来るように見えなかった。「こんな普通の子がよくアフリカまで1人で来るよなあ」と思ったのを覚えている。だから彼女から「ホームページをやってるんです」と言われたときは、「普通っぽい内容

だろうなあ」と、実はあまり興味が持てなかった。そして……なんの気なしに彼女のホームページ「放浪乙女」を見て、とてもショックを受けたのだ。現実を冷静に見つつ、切々と胸のうちをつづった内容はあまりにおもしろく、正直「負けた！」と思った。冒頭に「気になっている」なんて書いたけれど、本当はいまもちょっぴり彼女を妬ましく思う自分がいる。彼女は私ができないことを普通の顔してスリリとやってのけるのだ。

「自分のやりたいことをやってる人たちがいた！ って、なんだか目からうろこでしたね。それ以来、期限のない旅をしたいと思うようになって……」。初めて「放浪」する長期旅行者に出会ったのは、奇しくも大学4年の卒業旅行で訪れた中国の雲南省のことだったという。「だから会社に入るときも、3年働いたら辞めて旅に出ようと思ってました。そのために貯金もしていました」。実は私も、大学を卒業して出版社に入社するときに、同じようなことを考えていた。3年くらい修行したら、その後しばらく休んでも一応のキャリアにはなるかな、と。そのへん私と彼女の思考回路は似ている。私の場合、会社での仕事がおもしろくなりすぎて、2年半以上経っても「しばらくこのままでもいいかな」なんて思っていたし、なにより旅に向けた貯金なんてなかった。私がもしダンナとめぐり遭わなければ、世界一周旅行には一生旅立たなかったかもしれないと、いまでも思う。その間にも彼女は1人でコツコツとお金を貯め、旅立ちの準備をしていた。それは、私ができなかったことだ。

「亜流」女子の旅立ち

初めて海外に行ったのは、大学2年生の夏休みだったという。中学時代は優等生で、地元の進学

柏木敦子

1976年、大阪府出身。関西大学2年在学時にイギリスで1ヶ月のホームステイをして以来、休みのたび旅に出る。卒業後出版社に勤務するが、会社が経営難に陥り、退社。2002年3月に1年の予定で旅立つも、結局3年半に渡る世界一周旅行に。帰国後、再び出版関係の会社に入り、編集者として活躍中。